

豊中市議会議員(保守系市民派・無所属)

福岡まさき

平成25年4月 後援会事務局発行

市政だより

三月定例会

**「浅利市政」これまでの実績とこれからの課題！**

阪神淡路大震災で大きな被害を受けた豊中市は、その後の後遺症や長引く景気の低迷などから平成11年10月に、赤字再建団体への転落を回避するため、財政非常事態を宣言しました。その後も厳しい財政状況が続く中、平成18年4月に浅利市政が誕生し行財政改革に粘り強く取り組みました。

その結果、ピーク時の市債残高2、311億円が1、702億円へと609億円の縮減、財政の硬直度を示す経常収支比率も目標の95%以下を達成しました。(まだ十分ではない)

また、より身近な市民サービスの提供が可能な中核市への昇格や新たな行政評価制度である包括外部監査制度の導入。

施策面では、豊能地区3市2町で導入した教職員人事権委譲の中心的役割を果たすとともに、大阪国際空港就航都市へのトップセールスに取り組み、24都市が一堂に会したサミット会議を開催、空港

や地域の活性化にも取り組んでいます。

更に、「子ども育み条例」や私と会派が具体的に提言した学校等の耐震対策、「企業立地促進条例」制定で取り組んだ産業振興策。空き家・老朽危険家屋を解消し「住宅環境都市」のブランドイメージを守るための各種調査や予算付けなど確実な成果と姿勢は評価したい。

今後の課題は、豊中市の更なる魅力アップや予想される震災被害に備えての老朽インフラ対策と自前の復旧・復興資金確保のための財政基盤の強化などが最優先課題です。

そうした意味からも、今回出した財政非常事態宣言の撤廃や「行財政再建対策室」の廃止と縮小は市民にとって「豊中市はもう大丈夫」という間違ったメッセージになりかねません。私は今後も引き続き行財政再建問題に取り組みます。

「新政とよなか」議員団控え室

〒561-8501

豊中市中桜塚3丁目1番1号

TEL 6858-2620 (直通)

FAX 6852-2384

自宅

〒560-0082

豊中市新千里東町2-7 C27-1109

TEL 6833-7705

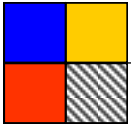
FAX 6831-1281

E-mail ximtechs@dab.hi-ho.ne.jp

福岡正輝 ホームページもご覧ください<http://www.fukuokamasaki.com>又は (ヤフー又はグーグルの福岡正輝で検索)

※日常の活動や政治信条、市政の裏話など報告しています。

また、「市政だより」に掲載できない詳細部分はブログで公開しています。



「福岡まさき」の

活動日記

2/2 通学路の安全対策

亀岡市での集団登校時における事故を受けて、昨年8月に市と市教育委員会、豊中警察などが通学路の安全点検を実施しました。市内41小学校が抽出した302の危険個所のうち、既に対策を実施した21か所を含む158か所については、対策案が取りまとめられました。今後はスクールゾーン・交差点マークなどの表示や注意喚起の電柱幕を新設・更改する他、学校での安全指導や警察によるパトロールの強化などが行われる予定です。

また、残る144か所についても引き続き検討することになっています。

発表された危険個所の数は、各小学校区によってばらつきはありますが、多い校区では15か所の危険個所が指摘されています。今回発表された41小学校区のうち唯一危険個所の指摘がなかった東丘小学校は千里ニュータウン内にあり、近隣住区理論や歩車分離を生かしたコンパクトシティで恵まれた地域という側面があります。しかし、防犯やPTA、これまでの自治会連絡協議会など地域ぐるみの「まちづくり」に長年取り組んできた成果が実を結んだとも言えます。

地域が一丸となった協力体制が「地域自治組織」に引き継がれた今、より良い組織体制と確実な成果の積み重ねが求められます。

2/4 「空港問題」伊丹市議会と交流

豊中市の呼びかけで始まった伊丹市との二つの空港問題特別委員会の交流が行われ出席しました。空港運営が関空と統合され新会社になった現在、空港の活性化や騒音対策についても伊丹市との協力により国や新会社に対して影響力の強化が求められます。今後とも空港を守り発展させるため取組んでいきます。

私の一日はブログの更新で終了。一日を振り返り、書くことで気持ちの整理ができます。皆さんにお伝えしたいことが山ほどある中のほんの一部を紹介します。

2/8 「会派視察」をどう生かす

2月5～7日、鹿児島県各市を視察しました。会派視察の初日は奄美市です。大阪国際空港が就航している29空港、34都市の一つである奄美市を訪問し交流の輪を広げるのが主な目的でその内容は 1.スポーツ・文化等の相互交流 2.産業・観光振興に関する相互協力 3.災害時の相互応援 4.空港を活かしたまちづくりに関する事業、となっています。奄美市役所を訪れた会派5人は議会事務局、議会産業建設委員会、企画調整課、商工観光部の代表と懇談し具体的な提案や活発な議論をさせていただきました。

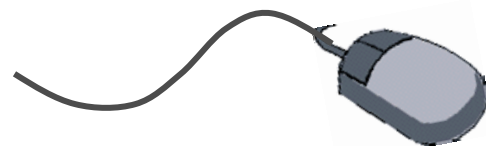
2日目は同じ就航都市の霧島市、ここでの視察目的は議会を活性化させる「議会基本条例」で市民に対する議会報告や市理事者の反問権について聞き取りをしました。私自身は議会側が譲歩してでも市側に反問権を与えるべきだと考えています。そのことが質問のための質問、反対のための反対、単なるパフォーマンスからより次元の高い議論への転換が可能だと確信しています。

3日目は市職員研修所を改修したユニークな子育て支援施設(リボン館)を運営している鹿児島市で、子育て支援にかける現市長の強い意志を感じ大いに参考になりました。

尚、初日に訪問した奄美市では地元2紙の取材を受け翌日に大きく報道されました。



「いろいろブログ」



2/21「赤ちゃん先生」授業参観

「赤ちゃん先生」とは0歳児の赤ちゃんが先生になって教育機関や高齢者施設などにママと一緒に訪問し、赤ちゃんの共感力を使って地域社会をつなげ、無縁社会の解消や感じる心を育てることを主な目的としています。

最初は二人のインストラクターがクラス全体に対し「いのちの力」と題して話を始め、赤ちゃんがどのようにして生まれてきたのか、どんな役割を持っているのかなどについて話します。

子どもたちはお母さんの話を聞き、赤ちゃんに触り、抱き上げたりあやしたり、それぞれの子供の思いで関わります。どの子も目も輝き、どう関わろうかと一生懸命でした。子どもたちにとって命の大切さや目の前のいとおいしい赤ちゃんへの接し方など、人が本来持ち合わせている「やさしい心」が前面に出た和やかな時間となりました。

※全国的に注目されている授業を豊中市で実施できるよう取り組んでいます。

3/24「アドプトロード」参加

毎月第4日曜の午前に行われるアドプトロード(地域美化清掃)に参加しました。この制度が地域に導入され10年以上が経過し、地域の生活道路(約1.5km)の清掃に多くの方が取り組んでこられました。

参加者は二つの老人会を含む地域から約60名、多いときは100名にもなります。早朝の爽快な気分、挨拶を交わし地域美化への社会貢献にささやかな喜びと連帯感を感じます。また、多くの個人が各地で取り組む美化清掃の広がり感謝。

今後も一人でも多くの参加者が増えるよう取り組んでいきたいと思ひます。

1/4～3/31

- 1月 4日 新年の挨拶を街頭で
- 2月 16日 3週連続のFP研修参加
- 3月 5日 会派代表質問 I～III
- 3月 15日 八中卒業式に参加
- 3月 19日 小学校卒業式

3/31「介護の現実」に思う…

我が家の介護生活は第二ステージを迎え、母が施設に入所することになった。10年近く前から、徐々に母の認知症は始まり、最近では一時も目を離せない状態まで進行してしまつた。自分の親は自分で見るものだと思つていたし出来ると考えていた。

しかし、介護の本当の大変さはこの10年を体験するまで解らなかつたし、想像すらしない事だった。足腰の弱くなった母の排泄を手伝い、記憶の曖昧な話につきあい、昼夜問わず名前を呼ばれ、その都度夫婦で対応した。認知症高齢者を介護する家族が一番辛いのはどんなにやっても治る事がなく、元気だった昔に想いを馳せる時である。

母の入所後、チームを組んで母を介護して下さる施設の職員さんたちがいて、自分たちを助けて下さるといふ事が、本当にありがたいと心から思つたのだつた。

この10年大変ではあつたが、自分の家族とも母とも十分に向き合い、かけがえのない日々を送らせていただいた。そして、10年前には解らなかつた『自宅で介護する事を諦めなければならない辛さ』も知る事ができた。

介護は何も高齢者だけの問題ではない。家族の健康に関する悩みを持っている方がたくさんいて、公の手助けを必要とする方々もたくさんいる。10年余りの介護生活は、母が私に与えてくれた学びと気づきの機会であるような気がする。そして、その母の教えを無駄にしないようこれからの活動に生かす新たな決意となつた。

3月議会「建設水道常任委員会」から

各施策の進捗状況について

◆新規重要施策 ◇前進した施策 ◆停滞状態

◇鉛製給水管解消事業

わずかに残る鉛管は平成30年度に市内全域で解消されます。メーターから蛇口までの個人分については交換に補助金が出ます。

◇お客様満足度 (CS) 調査

平成16年から3年ごとに調査を実施し、4回目の調査になるが水道に関する市民の関心と評価は年々上がっており、高度処理水に対しては高い評価を得ています。しかし、広報や市民対応については改善の余地あり。

◆水道管の老朽化対策

敷設以来、約50年の耐久寿命が迫る水道管が多いなか耐震対策が急がれるが対策は？老朽管の更新はこれまでも進めてきたが今後は震災に強い柔軟構造で寿命が100年と言われる新型管への更新を急ピッチで進めます。

◆住居地区バリアフリー整備

市内の鉄道各駅バリアフリー工事が完了し、住居地区への拡大が図られています。最初に8、9中校区、6、7中校区が選定され、市内全域に拡大されます。

◆放置自転車防止事業

放置自転車対策について豊中市は駐輪場の増設や啓発活動等に取り組んできましたが根本的な解決には至らず年間に1億5千万円もの予算をつぎ込んでいます。今回、強制保管料の値上げを実施しますが問題解決には程遠く先進事例を検討し抜本的対策を提案しました。

◆住宅環境都市の推進について

「まちづくり」の観点から空き家、老朽危険家屋対策について提言してきました。今回、一部地域でこれらの除却費用の補助と住宅ストックに関する基礎調査が予算化され、住宅地としての魅力アップや豊中市のイメージアップにつなげていきます。また、市民の安心・安全施策を結び付けることで持続可能な都市経営につなげていきます。

「市の資産」も活用次第で…

「資産活用部」設置を後押し！

これまで、私は空港周辺移転跡地を生かすための「企業立地促進条例」の制定、多くの自販機収入の市への帰属、遊休地の活用などに取り組み、大きな成果を得ることができました。こうした成果を受けて市は今後備える「資産活用部」を設置し、積極的に取り組み始めた事は重要な出来事ともいえます。

「ちょっと待った！その近視眼的施策」

今回問題提起したのは、道路予定として半世紀以上前の都市決定で放置したままの遊休土地(1.450㎡)をコインパーキング業者に低賃料で貸し出す案件です。道路計画そのものの見直しが進む中、この土地を低賃料で長年拘束するのは適切な施策だとはとても思えません。

私は、住宅地として整備するほうが景観面や税収確保、「まちづくり」の観点からも大切だと考え強く申し入れました。

今後、市はこうした案件はもとより膨大な市有施設の管理や統廃合問題の解決に、専門家の養成と都市経営感覚を生かせる議論の場が必要だと改めて指摘しました。

「ちょっと誇りに」

「あなたを救う病院」というテーマで日経ビジネスが、医師1200人、管理職7200人を対象に緊急調査を実施し「病院満足度ランキングベスト100」を発表した。旧弊にメスを入れ大胆な経営改革、医療やサービスの高度化に積極的に取り組む病院の姿がそこにあった。

数ある病院の中で「市立豊中病院」が全国で44位、近畿地区では9位にランクされた。順位だけで一喜一憂することもないが、利用者満足や強い病院をテーマに議会チェックを続けてきた当事者としてはありがたく誇りに思う。

「救命力世界一」を宣言した中核病院の評価アップに市民の皆様と今後も取り組みたい。